



【問】現在、妊娠中です。これから生まれてくる子どもをできることなら、むし菌のない子にしたいと考えています。何に気をつけたいでしょうか。

(佐世保市、25歳女性)

【答】実は生まれたばかりの赤ちゃんの口の中に、むし菌はいません。ところが歯が生えたころからむし菌が見つかります。では、その細菌はどこ

から来たのでしょうか。それは赤ちゃんの周りの人がむし菌を「感染」させているのです。中でも、最も接する時間が長い母親からの感染が多いといわれ

ています。赤ちゃんの口の中の細菌のDNAを調べると、そのほとんどが母親の細菌のDNAと一致したという研究結果があります。では、具体的にどう感染

するのでしょうか。例えは、親がかみ砕いた物を食べさせたり、親が使ったはしやスプーンで食べさせたりすると、簡単に赤ちゃんに感染します。逆に生後9カ月から3歳

赤ちゃんのむし菌

周囲が感染させている

ままでの時期に感染しなければ、大人になってもむし菌が少ない状態が続きます。人間の体は体内の細菌の数をコントロールする機能があります。ベースになる菌

とされています。つまり乳幼児期は将来の口の健康にとっても、とても大切な時期なのです。しかし、子どもとのスキンシップもとても大切です。ならば、どうすべきか。大切なことは母親をはじめ周囲の人が口の中の環境を良くすることです。祖父

回答者 御厨 増尚
北松佐々町本田原
みくりや歯科医院院長



質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します(直接本人に回答はしません)。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページ(<http://www.nda.or.jp/>)も参考にしてください。